

運動部活動の地域移行に関する検討会議提言（案）の概要

※公立中学校等における運動部活動を対象

運動部活動の
意義と課題

意義

- 生徒のスポーツに親しむ機会を確保。自主的・主体的な参加による活動を通じ、責任感・連帯感を涵養、自主性の育成にも寄与。
- 人間関係の構築、自己肯定感の向上、問題行動の抑制。信頼感・一体感の醸成。

課題

- 近年、特に**持続可能性**という面で**厳しさを増しており**、中学校生徒数の減少が加速化するなど**深刻な少子化が進行**。〈生徒数：昭和61年589万人→令和3年296万人に半減、出生数：令和3年84万人〉
- 競技経験のない教師が指導せざるを得なかったり、休日も含めた運動部活動の指導が求められたりするなど、教師にとって大きな業務負担**。〈土日の部活動指導：平成18年度1時間6分→平成28年度2時間9分に倍増〉
- 地域では、**スポーツ団体や指導者等と学校との連携・協働が十分ではない**。

これまでの
対応

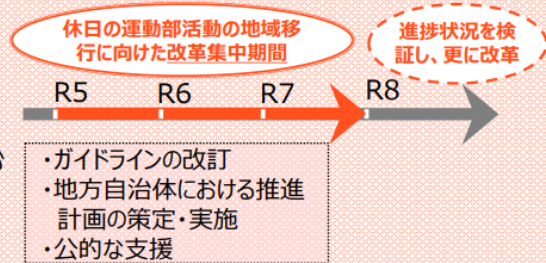
- 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（平成30年3月）：学校と地域が協働・融合した形で地域におけるスポーツ環境整備を進める
- 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について（令和2年9月）：令和5年度以降、**休日の部活動の段階的な地域移行**を図る
- 中教審や国会等：「部活動を学校単位から**地域単位の取組**とする」旨指摘

目指す
姿勢

- 少子化の中でも、**将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保**。このことは、学校の働き方改革を推進し、**学校教育の質も向上**。
- スポーツは、**自発的な参画を通して「楽しさ」「喜び」を感じることに本質。自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り。部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出**。
- 地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保**。（スポーツ団体等の組織化、指導者や施設の確保、複数種目等の活動も提供）

改革の
方向性

- まずは、**休日の運動部活動から段階的に地域移行**していくことを基本とする
- 目標時期：令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目標**
（合意形成や条件整備等のため更に時間を要する場合にも、地域の実情等に応じ可能な限り早期の実現を目指す）
- 平日の運動部活動の地域移行は、できるところから取り組むことが考えられ、地域の実情に応じた**休日の地域移行の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進**
- 地域における**スポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等**にも着実に取り組む
- 地域の**スポーツ団体等と学校との連携・協働の推進**
※改革を推進するための「**選択肢**」を示し、「**複数の道筋**」があることや、「**多様な方法**」があることを強く意識



課題への
対応

新たなスポーツ環境

- ・地域の実情に応じ、多様なスポーツ団体等が実施主体
- ・特定種目だけでなく、生徒の状況に適した機会を確保

スポーツ団体等

- ・先進的に取り組んでいる事例をまとめ提供
- ・必要な予算の確保やtoto助成を含む多様な財源確保の検討

スポーツ指導者

- ・指導者資格の取得や研修の実施の促進
- ・部活動指導員の活用、教師等の兼職兼業、人材バンク
- ・指導者の確保のための支援方策の検討

スポーツ施設

- ・学校体育施設活用に係る協議会の設置、ルールの策定
- ・スポーツ団体等に管理を委託

大会

- ・大会主催者に対し、地域のスポーツ団体等の参加も認めるよう要請
- ・地域のスポーツ団体等も参加できる大会に対して支援

会費や保険

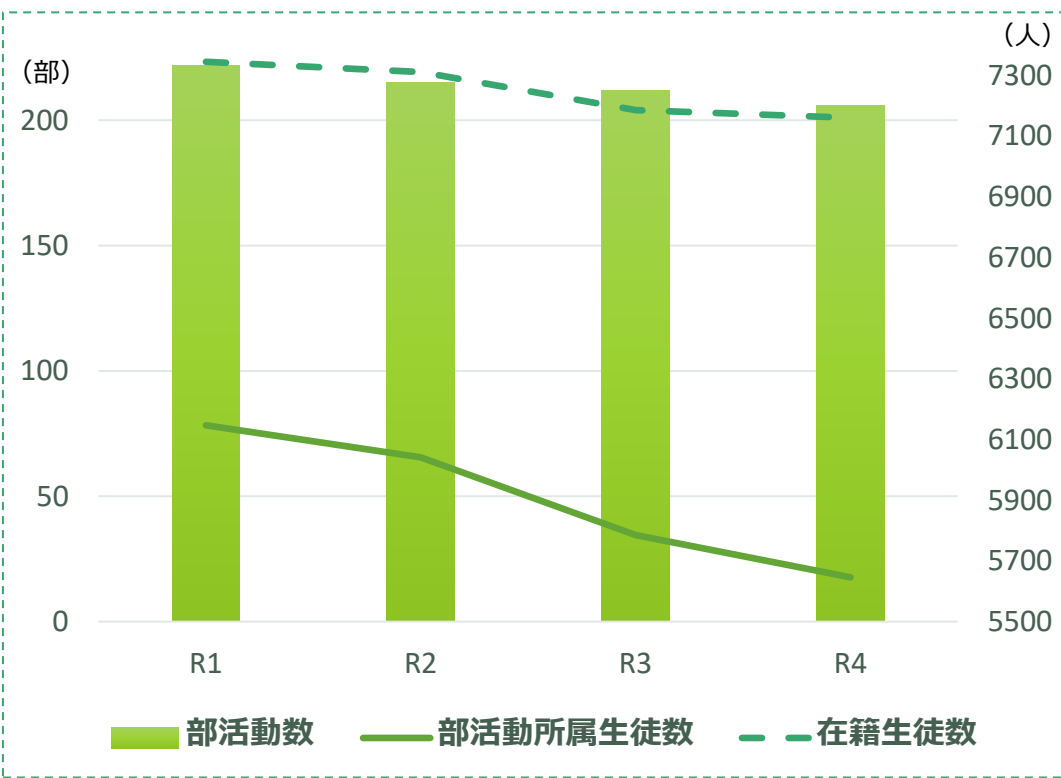
- ・困窮する家庭へのスポーツに係る費用の支援方策の検討
- ・スポーツ安全保険が、災害共済給付と同程度の補償となるよう要請

学習指導要領等

- ・部活動の課題や留意事項等について通知、学習指導要領解説の見直し、次期改訂時の見直しに向けた検討
- ・部活動等から伺える個性や意欲・能力を入試全体を通じ多面的に評価
- ・教師の採用で部活動指導の能力等を過度に評価していれば、見直す

※国立の中学校等でも、学校等の実情に応じて積極的に取り組むことが望ましい。
 ※公立及び国立の高等学校等については、義務教育を修了し進路選択した高校生等が自らの意思で選択している実態等があるが、各学校の実情に応じて改善に取り組むことが望ましい。
 ※私立学校でも、学校等の実情に応じて適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。

■奈良市立中学校の部活動の状況推移



【実態】

- ・在籍生徒数は、減少傾向にある。
- ・部活動に所属する生徒数また、割合は、年々減少してる。
- ・教員数について今後減少が見込まれる。
- ・設置部活動数は、大きな増減が見られない。

【懸念事項】

- ・少子化の進展により、中学校の生徒数は減少しているが、設置部活動数については規模が変わっていない。
- ・在籍生徒数と部活動所属生徒数の差が拡大しつつあることから、今の生徒のニーズと部活動がマッチしていない可能性がある。
- ・教員だけの、部活動運営が困難になる。

【参考】中学校教員数推移

	R1	R2	R3	R4
教員 (人)	468	466	459	463

※R4については附属中学校の開校により、教員数が増加した。

	R1	R2	R3	R4
部活動数 (部)	222	215	212	206
部活動所属生徒数 (人) 【在籍生徒数に対する加入割合】 (%)	6147 【83】	6042 【82】	5785 【80】	5646 【78】
在籍生徒数 (人)	7345	7311	7186	7160

・ 顧問や部員の不足により、大会やコンクール等への参加だけでなく、日頃の活動すら維持していくことができない可能性が生じる

奈良市中学校部活動設置状況 (R5段階)

学校教育課
2023/09/22
資料③

春日	野球	サッカー	バスケット	バドミントン	ソフトテニス	卓球	バレーボール	柔道	剣道	吹奏楽	千ターマン ドリル	情報活環	イラスト						
三笠	野球	サッカー	バスケット	ソフトテニス	卓球	バレーボール	柔道	剣道	ソフトボ-ル	陸上競技	吹奏楽	バトントワ リング	放風	手標	美術	英語	合唱	国際交流	
若草	野球	サッカー	バスケット	バドミントン	ソフトテニス	剣道	吹奏楽	英語	科学	家庭									
伏見	野球	バスケット	ソフトテニス	卓球	バレーボール	陸上競技	バドミントン	ソフトボ-ル	千ターマン ドリル	情報活環	英語	家庭							
富雄	野球	サッカー	バスケット	ソフトテニス	卓球	バレーボール	剣道	ソフトボ-ル	競式テニス	吹奏楽	英語	七宝鏡	創作まんが	茶道	ボランディア	電子技術			
都南	野球	サッカー	バスケット	ソフトテニス	バドミントン	卓球	バレーボール	陸上競技	剣道	吹奏楽	英語	科学	演劇	家庭					
田原	卓球	陸上競技																	
興東館柳生	バドミントン	卓球	剣道	文化活動															
登美ヶ丘	野球	サッカー	バスケット	バドミントン	バレーボール	剣道	水泳	吹奏楽	パソコン	英語	家庭								
ならやま	野球	バスケット	ソフトテニス	バドミントン	オーケストラ	情報活環	英語												
二名	野球	バスケット	ソフトテニス	バドミントン	卓球	バレーボール	剣道	陸上競技	吹奏楽	英語	家庭								
京西	野球	ソフトテニス	卓球	バレーボール	ソフトテニス	千ターマン ドリル	英語	家庭	科学調査										
富雄南	野球	サッカー	バスケット	ソフトテニス	卓球	バドミントン	剣道	陸上競技	吹奏楽	千ターマン ドリル	英語								
平城	野球	サッカー	バスケット	ソフトテニス	卓球	バドミントン	バレーボール	剣道	吹奏楽	英語発表	パソコン	ボランディア							
飛鳥	野球	バスケット	卓球	バドミントン	水泳	吹奏楽	英語	美術	家庭	サイエンス									
登美ヶ丘北	野球	バスケット	ソフトテニス	バドミントン	バレーボール	剣道	吹奏楽	英語	国際科学										
都跡	野球	バスケット	ソフトテニス	バドミントン	卓球	吹奏楽	英語												
平城東	野球	サッカー	バスケット	ソフトテニス	卓球	バドミントン	剣道	吹奏楽	創作	科学									
月ヶ瀬	卓球	バレーボール	文化活動																
都祁	卓球	バレーボール	剣道	陸上競技	吹奏楽	英語													
富雄第三	野球	サッカー	バスケット	バレーボ-ル	競式テニス	吹奏楽	パソコン	クラフトデ ザイン											

運動部

文化部

1 調査目的

奈良市における学校部活動のあり方や地域移行の方向性、課題、また、対応の方向性を検討するにあたり、その基礎となる児童生徒、保護者、教職員の意向を捉えるために実施する。

2 実態把握したい主な内容

- スポーツ及び文化芸術活動のニーズ
- 部活動地域移行に期待すること
- 部活動地域移行について感じている不安や課題

3 実施予定期間及び調査対象

○令和5年10月中旬から11月初旬

※市立小学校42校、市立中学校22校において、以下の対象者へ実施する。

対象		対象人数
児童生徒	市立小学校4・5・6年生児童	7,719
	市立中学校1年生生徒	2,287
保護者	市立小学校4・5・6年生児童保護者	7,719
	市立中学校1年生生徒保護者	2,287
教職員	市立中学校教職員	569
対象者合計		20,581

4 実施及び回答方法

【実施方法】

○Googleフォームによる実施

【回答方法】

○児童生徒
タブレット端末より

○保護者・教職員
専用QRコードより

※対象人数は令和5年度学校基本調査（R5.5.1）による

○方針策定の趣旨

- 少子化等の影響により市立中学校において、部活動の小規模化が進行。団体競技等によっては、学校単位の部活動の維持が困難。
- 将来にわたり、本市の子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる仕組みを構築していくことが必要。

○めざす方向性

- 地域での多様な体験や様々な世代との交流をつうじた学びなど新しい価値の創出できるよう発達の段階やニーズに応じた多様な活動ができる環境を整備する。
- 地域の実情に応じた生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、地域による体験格差を解消する。
- 何かひとつの競技や文化芸術活動に取り組むのではなく、ジャンルに捉われず様々な経験を積むことができる環境を構築する。

○期待する効果

- 地域の生徒や他世代間との交流をとおして、子どもの人格形成等に寄与する。
- 多様な種目・分野の経験により、将来のトップアスリートや音楽家等文化芸術の専門家等を育成
- 多世代間の交流を活性化させ、新たなスポーツ・文化芸術のコミュニティの創出をめざす。
- 学校の業務軽減につなげ、学校教育の質の向上を図る。
- 学校部活動の従前の概念を取り払う。

部活動のこれまでの「当たり前」から抜け出し、地域ぐるみで行う新しい「当たり前」の創設

生涯にわたりスポーツ・文化を親しむ生き方の気づき

